

省エネコストに関する考え方について (前回の議論を踏まえ整理)

省エネコストの分類	内容	位置づけ
A: 省エネ機器・設備コスト	現在の標準的な設備に対して、追加的に1kWh削減する時の省エネ設備の導入コスト。	電源ごとの発電コストとの比較を行う際の省エネ(節電)のための設備導入コスト。
B: Aから発電コストを控除	省エネ設備導入によって電力需要が減少することにより、追加的に発電設備を建設・稼働しなくて済むため、追加発電コストを控除するもの。 ※発電コストについては2010年の12社(一般電気事業者10社+J-power+日本原子力発電)の有価証券報告書をベースとした全電源平均を積算。 (8.57円/kWh。送電ロスを5%と仮定すれば$8.57 \times 100 / 95 = 9.02$円/kWh) ※環境価値については2020年以降のコストに計上することとしているため、本計算には計上しない。 (なお、仮にCO2価格=2000円/t-co2とした場合、電力会社の2010年度の排出係数=0.412 kg-co2/kWhであり、送電ロスが5%と仮定すると、$2 \text{円/kg-co2} \times 0.412 \text{kg-co2/kWh} \times 100 / 95 = 0.87 \text{円/kWh}$が環境価値となる。)	需要側と供給側の社会全体で見た場合の省エネ投資の効果を示すもの。 Bの値が負となる場合、社会全体で見ると、発電よりも省エネ(節電)の方が経済的に合理的な投資となる。
C: Aから電力料金を控除	省エネ設備導入によって需要家が払わなくて済む電気料金を控除するもの。	需要家から見た場合の省エネ投資の効果を示すもの。 Cの値が負となる場合、需要家にとっては省エネ設備の追加導入費用よりも節約できる電気料金の方が大きいため、省エネ設備の導入は経済的に合理的な投資となる。